

## 第6回 津山市教育振興基本計画検討委員会 会議録【概要】

日 時 平成28年11月29日(火)13:30~15:40

場 所 津山市役所本庁2階第1委員会室

出席者

・津山市教育振興基本計画検討委員 10名

委員長 松岡信義(美作大学短期大学部教授)

副委員長 松本浩之(津山市PTA連合会会長)

委 員 市村京子(津山市中学校長会)、小坂田昌平(津山市体育協会会長)、  
甲田敦三(津山市小学校長会長)、菅原良二(一般公募)、杉山明  
(津山工業高等専門学校教授)、塚本さつき(津山市立幼稚園長会長)、  
福田邦夫(津山朝日新聞社代表取締役社長)、八木芙佐子(津山市文  
化連盟会長)

・事務局 教育長、教育委員会関係部課長、企画調整官、関係各課長等 17名

### 1. 開会

### 2. 委員長あいさつ

### 3. 議事

意見・指摘事項について

(事務局説明)

・津山市教育振興基本計画(第2期)第4章のご意見について(10/25第5回会議より)を説明。

(委員の意見)

・9ページについて、文末「なお、計画策定以降に新たに取り組んだ事業等については[事業年度]を表示しています。」という文言があるが、勘違いすることのないように、わかりやすい表現に変えたほうがよい。

・12ページ「豊かな心の育成」の2つめ黒ポツに、「学校、家庭、地域が連携し「あいさつ運動」や「チャレンジハッピーデー」の取組を実施しました。」とあるが、「チャレンジハッピーデー」は、「豊かな心の育成」のための取り組みか。主体的な学習というものは「豊かな心の育成」につながると思うが、「あいさつ運動」と「チャレンジハッピーデー」が並ぶと違和感がある。「豊かな心の育成」のところであって大丈夫なのか。

・15ページ課題、1つ目の黒ポツの最後に「「個別の支援計画」の作成及び計画にもとづく指導の充実が必要です。」とあるが、重点取組を見ると作成については、小学校・中学校ともに100%の達成率になっているため、課題の「作成」は不要ではないか。

- ・19 ページ「教育委員会が積極的な情報発信を行い、教育委員会の活性化を図りました。」  
 というのは、情報発信をすることにより、教育委員会が活性化したということか。あるいは、教育振興基本計画や基本方針等を周知し、啓発活動を行ったということではないか。
- ・19 ページ【成果】3つ目の黒ボツ、「津山市の教育とつやま市教委かわら版」は、それぞれ冊子なので、それぞれをかぎかっこでくくったらどうか。
- ・表記だが、26 ページ【成果】の最後に「保育所」とあるが、これまでの表記は、「保育所（園）」だった。統一したほうがよい。
- ・21 ページの支援ネットワーク連携会議開催の年間 27 回というのは、27 ケースか回数か。
- ・23 ページの【課題】3つ目のボツ「親の学びをさらに進めるため」と「養成がさらに必要です。」と、さらにが続く。日本語としておかしいので直してほしい。
- ・32 ページの「市民文化の創造と継承」ですが、かつては津山にもたくさん映画館があった。映画館の存在は、その都市の文化レベルを示しているというか、皆が楽しめる多様な文化であり、津山の人口程度でまったくないのはつらいなという気持ちがある。
- ・43 ページ「豊かな心の育成」の4段落目「児童生徒が人としてのあり方や生き方について学び、多様な価値観を認識しながら自ら考え、判断し、人生をより良く生きるための資質や能力の育成を図ります。」という部分がとても大事だと思うが、この方向性はいわゆるキャリア教育というものである。そのことについて【主な取組】で関連することが出てくるのが、44 ページ「ふるさと学習の推進」の2行目「職場体験等の活動の充実を図ります。」というところぐらいである。中学生の職場体験だけでなく、小学生の低学年から自分の夢や将来について考えるような教育がよいのではないか。文言として「自分の将来や夢について考えるキャリア教育を進めます」という言葉があったほうがよいのではないか。
- ・キャリア教育というものは、非常に大事な部分である。基本計画に入れるところがないというのであれば、項目を作っても推進していくべきことではないか。
- ・職場体験は企業側の体制として受け入れが難しいことがあるとは思いますが、逆に働いている方に学校に来てもらって、例えば講演等するような取り組みはどうか。
- ・職場体験だけでなく、夏休みボランティアで保育園に行ったり、仕事や生き方を学ぶ場面はある。すべてがキャリア教育につながっていると考えるので、いろんな体験を増やすということもできるのではないか。
- ・第4章 40 ページに【重点取組と指標・目標】ということで、新たなフォーマットの表があり、巻末でも一覧にして分かりやすいと思うが、指標や成果目標、目標値があり、29 年度から5年間の工程表となっているが、ほとんどの取り組みについて右矢印が同じようにあるだけなので意味があるのかなと感じる。
- ・41 ページ【主な取組】の「わかる授業の推進」で、「問題データベースを授業や補修学習で活用し学力の向上を図ります。」とあるが、問題データベースとはどのようなものか。全国学力テストの問題をデータベース化し、テスト対策のために授業や補修学習で活用するという事なのか。

- ・全国学力テストの問題をデータベース化し、授業で使うというイメージにとられないか心配だが、基礎学力と発展的なものの改善に取り組むためのものというのであればよい。
- ・51 ページ「安心・安全に配慮した学校給食の充実」の【施策の方向性】最後の段落で「食物アレルギー対応について、学校給食の安全性を考慮した対応を行うことによって学校給食の安全性を確保します。」という表現はくどいのではないか。たとえば「除去食の徹底を図ることによって学校給食の安全性を確保します」というように、少し具体的な表現がよい。
- ・68 ページの社会体育施設の年間利用者数のグラフの注意書きについて、「何年度と何年度については」を加えてはどうか。
- ・59 ページ【重点取組と指標・目標】の事業指標に「親学講座・家族ふれあい教室」があり、「小中学校での」となっている。幼稚園にもあるが、このなかには入らないのか。家庭教育の中には幼稚園も含まれていると思うが、この事業指標には幼稚園は含まず、小中学校での参加者数のみの数字なのか。
- ・56 ページの表にある「アウトリーチ型支援の充実」は、29 年度から専門家を入れて支援するのか。また、述べ件数にしては少ないのではないか。
- ・気になっているのは、学校体育と社会体育のこと。これまでの会議で議論したが、先生方のご意見を聞きながら、良い方向に持っていきたい。
- ・73 ページ「文化環境の整備」の【主な取組】で、旧荻田邸の利用についての取り組みは考えていないのか。
- ・72 ページの表中「芸術・文化事業への後援件数[教育委員会]」とあるが、後援するにあたって基準、規定はあるのか。

## 第 5 章について

(事務局説明)

津山市教育振興基本計画(第 2 期)5 章の説明。

その他

- ・第 8 回 検討委員会 平成 28 年 12 月 14 日(水) 17:30~

4 その他

なし

5 閉 会